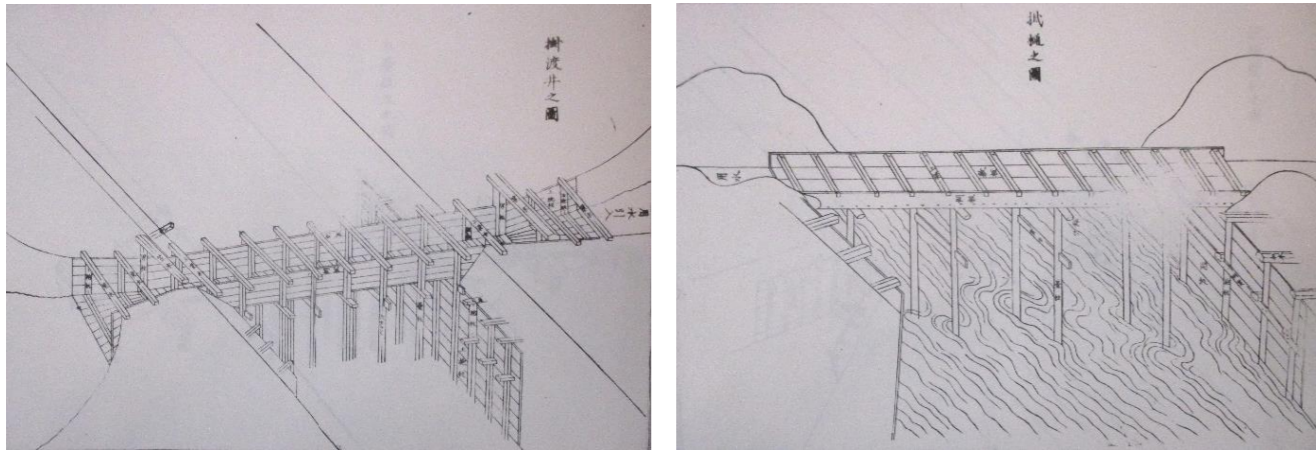


1 主に使用する資料

見沼代用水土地改良区 137 堤防橋梁組立之図 (完)



この資料は、見沼代用水の重要な構造物である「掛樋 (かけとい)」の組み立て方を絵図で示したものです。左の画像は組み立て途中の図で、右の画像は完成図です。土台から完成まで数枚ずつ順番に見ていくと、土台からだんだん組みあがっていく様子が分かります。「川の上 (または下) を川が通過する」という交差の仕組みは、想像することが難しいですが、絵図で示すことでイメージを持ちやすくなることができます。

本資料には、これらの重要構造物の他に、元坎・増坎、十六間堰、八間堰などの組立図も収められています。

2 指導例

(1) 本時のねらい

- 文書館の収蔵資料を調べたり、学芸員の解説を聞いたりすることを通して、弥惣兵衛が作った見沼代用水には様々な工夫 (ふせこし、かけとい、見沼通船堀などの構造物) があることを理解している。

(2) 展開

学習活動・学習内容	○指導上の留意点	資料等
<p>1 文書館を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文書館の役割や働きを知ること。 	<p>○全体で流路を確認する中で、これから調べる重要構造物に触れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文書館紹介スライド 足立家 105 足立関東 絵図 (彩色)
<p>2 見沼代用水の流路を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料で見沼代用水の流路と重要構造物の位置を確認すること。 		
<p>3 本時の学習内容をつかむ。</p> <p>井沢弥惣兵衛は、何のためにかけといやふせこしなどををつくったのだろう。</p>		

4 資料から、重要構造物の働きを調べる。

- 掛樋 (かけとい)
- 伏越 (ふせこし)



5 資料を調べて分かったことや考えたことを伝え合う。

- どれもたくさんの木材が使われていて、傷んでも交換ができるようになっている。
- 元坎・増坎は、大きなトンネルのようになっている。
- かけといやふせこしは、川同士がぶつからないように、片方の川が川の上や下を通れるようにしている。

6 学芸員の解説を聞く。

- どの構造物も利根川の水が、水害を起こすことなく、荒川まで流れつくようにするための工夫であること。

7 まとめ・振り返り

井沢弥惣兵衛は、利根川の水を荒川まで行き渡らせるためにかけといやふせこしなどを作った。

○資料を調べ、どのような働きをするのか話し合う。

○ペアやグループ、個人等、調べるときの形態を児童が選べるようにする。

○資料や名称から、使われている材料や働きを読み取らせる。

○見沼通船堀の解説を通して、見沼代用水が水運にも利用されたことに気づかせる。

○児童の言葉をもとに、重要構造物の働きをまとめていく。

・見沼代用水土地改良区 137 堤防橋梁組立之図

・見沼代用水土地改良区 100 明治年間元坎樋管伏替図

・見沼代用水写真 S302868-1、S491024-051 他



3 担当より

- 本指導例は、小学校学習指導要領社会科編の「内容 (4) ア (イ) イ (ア) (イ)」を受け、井沢弥惣兵衛と見沼代用水を事例に作成したものです。弥惣兵衛が命じた重要構造物を知るとともに、それぞれの役割を調べて、理解を深める内容となっています。
- 指導例では、調べる重要構造物に掛樋と伏越を選びました。調べる内容は、元坎・増坎など、他の重要構造物に差し替えたり、付け加えたりすることも可能です。